

はと時計

2024年全校読書運動「未来」

来年は「いのち輝く未来世界のデザイン」というテーマで、「大阪万博」が開催されます。気候変動や世界の紛争・災害など、これからの私たちが取り巻く世界は決して明るいことばかりではありません。しかしそのような中でも私たちはそれぞれの「未来」に向かって、日々前を向いて生きています。「未来」を少しでも明るく希望の持てるものにできるように、読書を通じて自ら考え、「未来」を切り拓いていく力を得てもらえればと思います。

中高生向け6pから
高校生向け14pから

中学生向き

7/8月合併号
松蔭中高図書館
(編集・M)
2024.7.16

『ガール！ガール！ガール！ガールズ！』宮下恵菜著 ポプラ文庫。ユアフル 2012
かわいくて頭も良くて性格もいいお姉ちゃんとは違い、平凡な日菜が生き抜くには、目立たないこと、上手にあわせること、即返信すること。めんどいな中二生活もまあまあ上手くやっていたつもりだった。学校一のルックスを持つあいつに話しかけられるまでは……。生きづらい思春期、完璧な解決なんてないけれど、どこか「未来」を向いている、そんな読後感を持ちました。(M・T)

『The Giver (ギバー 記憶を注ぐ者)』Lois Lowry (ロイス・ローリー) 著 新評論 2010
Life where Jonas lives is very peaceful. Everyone is given a job and a family. When Jonas becomes The Giver, he becomes the Receiver of Memories and understands why and how this is. Once he becomes The Giver, he must decide his future and the future of his community from his choices. (A・H)

『生き物たちが先生だ』 針山孝彦 著 くもん出版 2023

地球上の生物は、過去の進化の過程で独自の形やはたらきをもつようになりました。今度は、その生物のさまざまな特徴を解析し、未来の生活に応用しようとするのがバイオミメティクス(生物模倣)です。昔からあった考えですが、近年の地球環境問題の解決のためにさらに注目されるようになっていきます。本書は中学生にもわかりやすいように、その研究のようすや原理も含めて書かれています。とりあげているのはハスの葉やタマムシの色、イモリの指などと限られています。これら以外にもたくさんありますが、これら以外にもたくさんありますので、本書をきっかけに他のバイオミメティクスの例をぜひ調べてみてください。(N・N)

『「くつき」が僕らを呑み込む前に』 山田健太／たまむらさち 作 理論社 2023

生まれたときから身の回りにある「民主主義」の根っこを見つめ、「言論の自由」の研究者プロフェッサー・ケンタと一緒に私たちのこれからについて考える、絵本作家との共作絵本です。日本では小さいころから空気を読むのが賢いとされがちです。思考停止してなんとなく空気に流されていくうちに、自分も社会も不幸

な結論にたどり着いてしまいかもしれない。「おかしい」「変だ」と思ったら、まず立ち止まり、考えることが必要だということを知りかけてきます。でも強く読者に語りかけてきます。

「未来」を担うみなさんには、できる限り広い関心を持ち、報道を見聞きして情報を集め、その裏側や登場人物のことを想像する。感じる。ことがあれば誰かと話してみたり、助けを求めたりと行動する。そういう習慣をできるだけ早いうちから身につけて「未来」の自分を手助けしてあげてほしいと思います。(A・K)

『改革の力リスマ直伝！15歳からのリーダー養成講座』工藤勇一著
幻冬舎 2022

この本の著者は元先生。みなさんは『リーダー』と聞いてどんなイメージを持っていますか。発言力があつたり、人気者であったり、みんなから慕われているといった人と思いませんか。この本は、誰でも考え方次第でリーダーになれる指南書です。何かやってみてみたいと思って君！ちよつと読んでみませんか。

(H・K)

『超訳ニーチェの言葉』フリードリヒ・ニーチェ著 デイスカヴァー！トウエンティワン 2010

物事の考え方が大きく変わった。今までの自分を見つめなおすいい機会になります。内容は1ページごとに変わり、短い文章で内容の濃いものになっていきます。なので、長く読むのが苦手！という人にはとてもおすすめです！自分に自信をつけたい人は特におすすめです。それはなぜか。読めばわかります！気になる人はぜひ一度1ページだけでも読んでみてください！(K・H)

英語学習教材スクリーンプレイ「バック・トゥ・ザ・フューチャー」清水孝子監修 フォーイン 2013

1985年、カリフォルニアの高校生マリーティーンが、親友ドクの発明したデロリアン型タイムマシンで30年前の1955年にタイムスリップ！そこには若き日の両親がいて……。からはじまるタイムトラベルSFの金字塔。現在のタイムトラベルSFの金字塔系(君の名は。東京卍リベンジャーズ、etc.)ほとんどに影響を与え続けていると言っても過言ではありません。そんな名作映画の台詞(英語)がそのまま本になっています(音声DSS付)。吹き替えは役者本人ではないので多少棒読み感がありますが、そこはご愛嬌。豊富なコラムも楽しく、映画の裏話にも詳しくなれます。

ストーリーを追いながら名セリフを英語で覚えてしまいませんか！(書店では手に入らないかもですが、図書館にあります)。

『新恐竜 絶滅しなかった恐竜の図鑑』Gakei 2019 『フューチャー・イズ・ワイルド』ダイヤモンド社 2024 『アフターマン』ダイヤモンド社 2004 『ドゥーガル・ディクソン(著) 空想科学図鑑「フューチャー・イズ・ワイルド」』アフターマンは、

2億年後の地球に暮らしているであろう生き物たちを、創造力豊かに描き出します。本当にあるかもしれない説得力をもって語られる解説とイラストにクギ付けになること間違いなし！

しかし、「2億年」。生命の進化には、とんでもない時間がかかるものです。私たちが個体の寿命はとも短いです。ですが、連続と続いてゆく生命の進化に思いを馳せ、未来を想像する愉しさが生まれます。

「新恐竜」は、この世界線。もしも恐竜が絶滅しなかったら、どのような進化したか。

この話は、ドラえもん映画「のび太と竜の騎士(1987)」(のび太の恐竜はリメイクされましたが、こちらはリメイクされていません。ちよつと怖い話です)とも関連します。

1986年に「ハレー彗星」が大接近したことが同映画の内容にも影響しており、巨大彗星と恐竜の絶滅の関係が

示唆されます。約76年周期で地球に接近する「ハレー彗星」、1910年の接近時には、「彗星の尾に地球が呑み込まれ、5分間空気が吸えなくなる」というデマが流れて大パニックになったそうです。1986年の接近時、夜の小学校のグラウンドで、天体観測会がおこなわれました。実は当時のハレー彗星は地球からとても遠く、望遠鏡を使ってもほぼ何も見えなかったのに、なんだか周りが盛り上がったののに合わせて「見えたー!」と言ってしまったのは苦い思い出。次回、2061年の到来を、宮崎は楽しみに待っています。(H・M)

2023
 ニュートン超図解新書 『最強に面白い人工知能 デイープラーニング編』松尾豊監修 ニュートンプレス
 人工知能は革新的技術「デイープラーニング」によって、人間にも匹敵するような判断能力を手に入れました。現在では病気の診断や車の運転、さらには企業の採用活動にまで活用されつつあります。本書では、人工知能の飛躍をもたらしたデイープラーニングの基本的なしくみから、人工知能の未来までを「最強に面白く紹介しています。人工知能について理解するのはもちろんのこと、できれば、近い未来に起こると言われている「シンギュラリティ」について、

その是非も含めて考えてほしいと思います。(T・H)

『平安女子の楽しい生活』川村裕子著 岩波ジュニア新書 2014

『平安男子の元気な生活』川村裕子著 岩波ジュニア新書 2021

未来は過去や現在の続きです。だからこの本を紹介いたします。平安時代の人々の生活を、おもしろくわかりやすく解説してくれています。こういう本を読んだから「源氏物語」などの古典に触れれば、よくわかるだろうなと思います。(M・U)

『時をかける少女』筒井康隆著 角川文庫 2006

ひよんなことで、時間を飛び越える能力を手に入れた中学生の女の子の話です。主人公が未来に起こることを何とかして変えようとする姿は、皆さんが「未来」と「今」を考えるきっかけになるかもしれません。実はラノベの始祖なのでは?とも言われる、古くて、でも先進的で、そして短めの読みやすい名作です。

多くのメディアで作品化されており、実写もアニメもあります。この作品を何で知ったかによって、実は年齢がわかっちゃいますよね。(私は原田知世さんの映画です。)(Y・O)

『ぼく モグラ キツネ 馬』チャリー・マッケジー著 川村元氣訳 飛鳥新社 2021

未来を生きていく上で、僕たちは自分とは異なる姿、考えをもつ人(生き物)と一緒に生活していくこととなります。関係を結ぶ中で、「人」とは、「生き物」とは、何かに気づきます。素朴な表現の中に「未来を生きていくヒント」が散りばめられています。読むと心が「ほっこり」すること間違いありません。

『火の鳥(いのちの物語)』金の星社 手塚治虫(原作) 鈴木まもる 文・絵 2024

「火の鳥」は手塚治虫氏の作品で、いろんなバージョンが出ています。今回紹介するのは今年出版された絵本です。「過去」「現在」「未来」三世、特に「未来」をこれから生きていく皆さんに読んでほしい作品です。こころをひらこうと思つた「あなた」が読んでください。そうして、僕に感想を教えてください。(K・Y)

『「好き」の先にある未来 わたしたちの理系進路選択』加藤美砂子編著 岩波ジュニアスタートブックス 2024

お菓子作り大好き小学生が、「食」への関心から大学の管理栄養士課程に進学した。大学食堂の人気メニュー

「イケ麵シリーズ」を考案した彼女は、開発途上国の栄養改善と先進国の過剰栄養による健康問題に取り組み、「推しを見つけた」感覚で植物のコケと出会った女性は、生物学者となる道を選んだ。「将棋(しょうぎ)女子」として町道場紅一点の彼女は、進路は自分で好きなように考えよ、父親から言われた。あの道この道と「好きなもの」を迷いながら、最終的に母校の数学教師になった。

これら11人の女性の進路講演会の記録集である本書で一番よく目にした言葉は、「好き」「得意」「やりたいうこと」「ワクワク」である。やりたいうことが決まっているあなたにも、未来の自分など想像できないあなたにも一読をお勧めする。進路のコンパスになる1冊だ。(N・A)

『ミフイの授業』 瀧本哲史著 講談社 2016

この本によれば、「未来には、ひとつだけいいところがある」そうです。それは、「未来は、つくることができるといふところ。どうやったら未来はつくることができるといふところか。予測できてその通りになるとは限りません。誰にも確実な未来はわかりません。未来を想像してワクワクしたり、心配になったりもします。漠然とした未来を想って不安になったとき、これからどうすればいいかわからないと思ったとき、読んでみる

と何か得られるかもしれません。『私のスポットライト』 林真理子著 ポプラ文庫 2023

地味で目立たない中学一年の彩希は、クラス内の派閥争いに巻き込まれる。学園祭で行われる劇で主役を演じることに。そのことがきっかけで演じる楽しさに目覚め、もっと演技がやりたいと思うけれど……。自分の興味や関心は大切にしたい、でもそれがまだやっていたことがないこと、他の人がやっていたことだと不安になったり、やらなくてもいい理由を探したりしてしまいませんか。それでもやってみよう、「好き」に飛び込んでみよう。と一歩を踏み出す女の子の物語です。(K・K)

『さみしい夜にはパンを持って』 古賀史健著 ならの絵 ポプラ社 2023

主人公のタコジローは友だち関係に悩み、自分に自信が持てずにいる中学生。ある日、学校をさぼって訪れた公園で、不思議なヤドカリのおじさんに出会います。少しミスティアスなおじさんは、頭の中の思いを「言葉」にする方法として日記に書くことを教えてくれます。日記の読者は未来の自分、未来の自分を創るのは現在の自分。自分と言葉に向き合っただけで書いた日記で、タコジローは少しずつ変わっていきます。古賀氏はアトラー心理学『嫌われる勇氣』の著者

でもあります。自分を変えたいと思っ
ている人にはヒントが見つかるかも
もしれません。『縞模様のパジャマの少年』 ジョン・ボイン著 岩波書店 2008

この物語はドイツの軍人を父にもつブルーノがベルリンからポーランドへ引越すところから始まります。友だちが欲しいと禁止されていた探検をしていたブルーノは、フェンスの向こうの縞模様のパジャマを着た自分と同じ誕生日のシユムエルと出会いますが、やがて二人の友情は深まりますが、別れを前にブルーノが友人のためにフェンスを越えたことで惨劇が起こります。

今も世界では大きな惨事が起こっています。多くの市民や幼い子どもたちが犠牲になっているニュースを見ると、胸が痛みます。子どもたちの未来を奪っているのは誰でしょうか。これから先の未来の世界はどうなっていくのでしょうか。明るい未来を望みたいです。(K・M)

『夜のピクニック』 恩田陸著 新潮文庫 2006

「みんなで、夜歩く。ただそれだけのことがどうしてこんなに特別なんでしょう。」
高校の全校生徒が、朝8時から翌朝の8時まで歩き通すという「歩行祭」。これは、著者の母校で実際にあ

る伝統行事がモデルだそうです。最初はワクワクおしゃべりしながら、そのうち全身がくたくたになり、おしゃべりする体力もなくなる。けれど、暗くなるまで夜通し歩くという非常に、昼間なら絶対に語れないようなことを語っている。

そんな特別な夜を過ごした後に迎える朝は、未来への一歩目。かなり大変そうですが、夜通し歩く体験、一度してみたくまりました。

『カフェ・デ・キリ』 佐藤まどか著
講談社 2013

イタリヤ人の父が亡くなり、祖父の遺産を相続した中学2年生の霧子は、母と二人、ミラノにある父の生家に住むことになりました。カフェを継いだ母に協力して、ケーキのアイディアを考えたり、お店を手伝ったり。カフェのお菓子やパンは美味しそう

で、食べてみたくありません。いじわるなクラスメートには、きっぱり言い返し、新しい環境に怖がらず飛び込んでいく霧子。困難があつても乗り越えていく力を秘めた霧子の前には、大きな未来が広がっているように感じられます。

(N・F)

『やなしいいことばで日本国憲法』 池田香代子訳、C・ダグラス・ラミス監修解説 マガジンハウス 2002
朝ドラ「虎に翼」見えていますか？ 日

本初の女性弁護士になったヒロインは、戦争で夫を亡くし、絶望します。食べ物も乏しいなか、焼き鳥屋に入っても食費の気にもなれず、帰ろうとしてお店の女性が新聞で包んで持たせてくれました。そのタレのついた新聞紙に配布されたばかりの日本国憲法が載っていました。条文を読んで、勇気をもりました。主人公は法務省に乗り込んで仕事をもらいます。

この本には平易な日本語と英語で憲法が書かれています。「虎に翼」のヒロインが特に感動したのは14条ですが、前文と97条もよく読んでほしい。未来はいいようにも悪いようにも変わる。権力をしばる憲法、知識はあなたを助けます。自分を守る知識を身につけておいてほしい。

『何のために生まれてきたの？』やなせたかし著 P10文庫 2024

来年の朝ドラの主人公がアンパンマンの生みの親、やなせたかし。これは彼のインタビュを書き起こしたものです。

彼は戦争の経験から「正義の戦争なんかはない。それぞれの立場の正義を言っている限り戦争は終わらない。絶対的な正義とはなにか。それは餓えている人に食べ物を出すこと」と気づいてアンパンマンというヒーローが生まれます。アンパンマンは武器を持たない。バイキンマンはい

ろいろ持っているけど。でもバイキンマンのような敵・反対派を全部やっつけてしまおうとファシズムになつてその国家は滅亡していく。反対派があつてバランスよくうまくいっている場合こそが健康といえる……など、69歳までヒットがなかった彼の言葉は深い。病氣、オシヤレ、震災復興の話、やさしいことばでいろいろ考えさせてくれる本です。これを読んでアンパンマンを見たら、今までとちよつと違う気持ちになるかも。

(Y・M)

『青春サプリ。 挑戦する気持ち』 オザワ部長ほか著 ポプラ社 2023

「高校ではダンス部に入りたい」「幼稚園の頃から趣味でダンスを習っていたアミは、夏の公式全国大会で上位入賞している強校へ進学します。背が高く手足が長く、体も柔らかくてダンスが得意。しかし無口なアミは自分に自信が持てず、衝突をさけてしまいます。

「うちは悔しい！」
限界に近づいたアミの心が、ついに叫びをあげます。

感動ストーリー他4話。収録されている本をストーリーは全て実話です！この本を読んで、登場人物の気持ちの変化に共感する方は多いと思いませんか。私も少し前までダンスを習っていたので、アミの気持ちにとても共

感しながら読みました。部活で悩んでいる方、部活に一生懸命な方には、ぜひ読んでほしい作品です！
(トライやるウィーク参加者)

『人生はもつとニヤンとかなる！明日にもつと幸福をまねく68の方法』
水野敬也、長沼直樹著 文響社 2015

大ベストセラー「人生はニヤンとかなる！」の続編です。68のかわい猫たちの写真や、偉人のエピソード・名言が載っていて、人生で大切なことを教えてくれます。

私は33番の「空気なんか読むな」のページが特に印象に残りました。私も自分に自信がなくて、周りに合わせて行動することが多いです。しかし、ときには空気を読まず、自分を信じて進むことが大切だということに気づきました。あと、そのページに載っている猫の表情が最高なので見てみてください！
他にも、かわいい猫たちがたくさん載っていてとても癒されるので、猫好きにもおすすめです！ぜひ読んでください！
(トライやるウィーク参加者)



中高両方

『成瀬は天下を取りに行く』 宮島未奈著 新潮社 2023

本屋大賞で話題の本で、どこの本屋さんへ行っても積んであります。内容に関しては賛否両論あると思いますが、同世代が主人公です。するので読むのでは？二百歳まで生きると宣言している成瀬。日々をどう生き、そのつなかりの「未来」をどう描いているのか。高校生の、みなさんは主人公・成瀬あかりの「価値判断」がどこにあるかということも考えながら読んでみてください。
(M・T)

『佐賀のがばいばあちゃん』 島田陽七著 徳間文庫 2004

「死ぬまで夢を持って！その夢が叶わなくてもしよせん夢。」
みなさんには夢がありますか？夢があることはとてもいいことです。でも夢が叶わなければどうなるのか考えると不安になりますか？私はないです。夢ほど大きなものでなくても頑張ったことに結果が伴わなければショックが大きいです。そんな

ときに心の中で「しよせん夢」とつぶやくようにしています。いいことばかりあるわけじゃない、自分の思うとおりに行くわけじゃないそれでも歩みを止めずしよせん夢を割り切つて次に進む。きつとこれの繰り返しです。未来は開かれていくのだと思います。
(H・T)

『あなたの言葉を』 辻村深月著 毎日新聞出版 2024

毎日小学生新聞に2020年4月から連載されたものをまとめた本。身近な話題で小学生へ向けたメッセージです。感染症による休校期間と重なるため、そのような内容も多いですが、子どもに寄り添ったやさしい言葉、文章です。小学生だけでなく中学生、高校生でもうなずける内容が1つはあります。「ともだち ひやくにん」できるかな」の歌が苦手だっただけ、という人はたくさんいると思います。
(H・K)

『永遠のO(ゼロ)』 百田尚樹著 講談社文庫 2009

第二次世界大戦中の特攻隊員である宮部の人生と、現代に生きる彼の孫たちが宮部の過去を追っていくという物語が描かれています。
宮部という人物は非常に優秀な特攻隊パイロットでしたが、命を無駄にしないという信条を持ち、敵機に対して空中戦を挑むことはありませんでし

た。しかしながら、戦争の激化とそれに伴う状況の変化に伴い、彼は次第に追い詰められ、ついに特攻隊員として出撃する志願をすることになります。家族の為に生きて帰ると誓った宮部が、なぜ最終的に特攻で命を落とす決断をしたのか。そして、孫の健太郎と姉の慶子がたどり着いた宮部の隠された真実とは。

第二次世界大戦末期、千人を超える多くの若者の命が、航空特攻作戦で失われました。一人ひとりにかけがえない命があり、人生があり、愛すべき友人や家族がいたはず。その事実を刻みつつ、物語を読み進めて欲しいと思います。(R・B)

『口の立つやつが勝つてことではないのか』 頭木弘樹著 青土社 2024

AI技術がどんどん「進化・発展」し、最近ではチャットGPTなるものの出現で、便利にはなったかもしれないけれど、ますます「自分で考えない」でもすみます。チャットGPTに至っては、学校で皆さんが頭を悩ませる「論述」「記述」「感想文」など、手間のかかることを、すつきり論理的にまとめてくれる超便利グッズになりつつあります。時代は何もかも、効率的で論理的でスラスラすつきり説明してくれる…そんなものが重用されるようになりました。

ところが、その正反対を行くような、スラスラ、論理的にわかりやすく弁舌さわやかにまとめる…なんてことが本当にいいのか? という本を発見。タイトルを見た瞬間、「読みたい!」って思いました。というのも、テレビを見てても、ネットを見てても、この感じいいいままかせてやった、論破してやった、炎上させてやった…のような、少々わがままで、時に差別的な事でも、理路整然と一見「正しい」風にも、スラスラと「雄弁に」述べる人が、もてはやされていることが多いなど、ふだんなんとなく嫌な感じがしていたからです。一方で、何かを一生懸命考え、とつとつと語る、つつかえつつかえしながら、自分の言葉でなんとかに人に説明したい、でもうまく説明できない、もどかしい…そんな誠実な人たちが「ダメ人間」扱いです。プレゼン能力がもてはやされる中でもスラスラ説明できることがよしとされる未来…: 本当にそれがいいのか? 「心の奥の思いなんてうまく言葉にできない方が、当然なのだ。それでいいのだ」とある意味、開き直ってくれる頭木さん、私も大賛成です。

自分の思いをうまく説明できないことがあるあなた。あなたの味方です。決して未来を悲観する必要はありません。そのためにも是非一読を。

『ただいま神様当番』 青山美智子著 宝島社文庫 2022

「今のままの君でいいのか?」。そう言ったらアドバイスをくれたり怒ってくれる人がそばにいる人はラッキーです。たとえ自分がまちがっているかなと思うことがあっても、なかなか自分で自分に説教するのは難しいことです。この本では、登場人物が悪いことや失敗をしたときに、「わしは神様」「神様」がやってきて、「わしは神様、だからわしの言うことを聞いて」とお願いをしてくるので、変な神さまです。しかもジイさんなのです。そして、そのお願いをかなえるのが「神様当番」。「お前が神さま当番になったんだから、わしのお願いを聞いて。聞いてくれるまで帰らへん」。完全に変な神さまです。でも神さまのお願いをかなえようと奮闘する登場人物は、気づかぬうちに自分を変えていくことになります。

過去は変えられないけれど、未来は変えられる…: 神様のわがままにしかたなくつきあっていくうちに、主人公は自分の未来を変えたのかも知れない。しかもいい方向に。変な神様なんです。憎めない。いや、なんなら1回ぐらい私も神様当番、してみてもいいかなと思わされます。(A・N)

『自分のミライの見つけ方』
児美川孝一郎著 旬報社 2021

将来、働くために、様々な視点からアプローチされている。フツターの人生……「同調圧力」の存在、「やりたいこと」がないとダメなのか。様々な働き方、働くってどういうことか。これからの社会に向けて。学校の勉強は役に立つか。「グーグル先生」に聞けばすべて解決するのか？将来のことはまだ考えたくなくても、一度読んでみてはいかがでしょうか。(F・T)

『数学の贈り物』森田真生著 ミシマ社 2019

数学の独立研究者である森田真生氏の随筆集です。今回、「未来」というテーマを考えるにあたって浮かんだことは、古くから変わらないことを知りたいという思いでした。ずっと変わらないことに安心感・信頼感が得られることもありすが、自由に未来を思い描くことへの指針になるようにも思えるからです。読む毎に心に響くことや理解に変化があり、「推薦します！」というよりは、「このような本もありますよ。」とご紹介させていただく感じです。手に取ったときに、毎回、「ここはいいな、と思うところがあります。『身軽』というタイトルの文章の中に出てくる一文で、「生きるために道を追うのではなく、道のために生きること。」です。

将来の進路を考えるときの、今いる場所にいるときのヒントになる気がします。本としてもシンプルでおしゃれです。少しずつつまわいなながら何回も読みたいと思う本です。(Y・Y)

『アルプス席の母』早見和真著 小学館 2024

私が小学生の時、故郷徳島の池田高校がやまびこ打線で全国に名を轟かせました。それ以来高校野球のファンです。当時大きなお兄さんに見えた高校球児たちは、今では自分の子供たちよりも下の世代になりました。それでもいまだにプロ野球より高校野球が断然好きです。彼らの懸命な姿に輝かしい未来を感じるからです。

この本は、将来を有望視されていた秋山航太郎の母、菜々子の視点で物語が進んでいきます。母親視線で強豪校の裏側を描いている前半は、私の知らない高校球児の親たちに驚いたりドン引きしたりしながら読み進めましたが、後半は、もがきながらも自分の力で前に進もうとする息子を懸命に支える母菜々子の姿に感動の連続でした。

菜々子は言います。「人が生きるということは、物語とは違うのだ。人生が閉じるわけじゃない以上、いまこの瞬間が終わるわけじゃない。(中略)あの甲子園でさえやはりゴールではないのだ。」

いのだ。残酷にも、無情にも、あるいは幸運にも……。人生はそれからも続いていく。何度挫折を味わったとしても、未来はいつだって自分たちの前にあるんだと思える一冊です。ぜひ読んでみてください！

『紫式部と源氏物語見るだけノート』吉田裕子監修 宝島社 2023

大河ドラマの大ファンの私が、「光る君へ」の予習をしようと思って買ったものです。イラストメインで図鑑のようになっていきますので、とても分かりやすいです。源氏物語の内容の解説はもちろんですが、平安貴族の衣食住や仕事、暮らしを解説している第二章がとて興味深いと思います。

「源氏物語」から千年以上も経つ未来において、尚自分の作品が読まれ続けているのは、紫式部もびっくりでしょうね。きつとこれから未来においても読まれ続けていくことでしょう。

(ちなみに、監修の吉田裕子さんが、清少納言と紫式部を比較して「令和の女性にも通じる葛藤を抱えていたのが紫式部で、男性貴族らとの機知に富んだやりとりを楽しみ、最先端のセンスを書き留めたのが清少納言」であり、「清少納言は『Ikebana』や『Instagram』を愛用する人だとすれば、紫式部はXやnoteに思いを綴る人」と言っているのがとてもおもしろかったです。)(K・Y)

『10代から考える生き方選び』
竹信三恵子著 岩波ジュニア新書
2020

「自分も十代の頃に読んでおきたかった。」というのが、この本を読んだ最初の感想です。激しく変化していく時代において、皆さんがどのような人生を選択していくべきなのかについて、あらゆる具体的なパターンを例に挙げて書かれています。もしAを選択していたら、また別のBを選択していたら、人生はどのような変わっていくのか。それぞれのパターンでの人生をシミュレーションして書かれており、とてもわかりやすく興味を持って読み進められます。長い人生の先々まで考えて、素晴らしい「未来」を自らの手で掴み取れるように、ぜひこの夏読んでみてほしい一冊です。

『20歳の自分に教えたい お金のきほん』池上彰+池上彰のニュースそうだったのかー! スタッフ著 SB新書 2022

「困難な時こそ、ニュースを通して世の中の動きを知ることが大事」とあります。今後これまでに以上の不景気がやってくることも十分に想定されています。そのような「未来」を生き抜いていく上で、常に積極的に情報を収集し、基本的な経済的知識を身につけておくことは、自らを守る手段として不可欠であろうと思われまます。池上彰のニュースそうだったのかー!

か!」という番組をもとに、初心者にもわかりやすく例えや図解を駆使しながら書き進められている本書は、まず最初の一步として十分かつ最適な一冊です。ニュースをほとんど見たことがなかった人も、きつとこの本との出会いを機に興味を持ち、世の中での起こっている様々なことにもアンテナを張っているようになるはずです。(Y・K)

『どうでもいいからどこかへ行きたい』
Dna 著 幻冬舎文庫 2020

未来や将来のことを考えてちよつと疲れてしまったり、ほかの人と比べて落ち込んでしまったりとき、この本のタイトル通り「どこでもいいからどこかへ行きたい!」と思うことがあるかもしれません。どこかへ行きたいって言ってもどこに?と思うかもしれません。どこでも良いのです。いつも素通りしている駅で降りて散歩してみたり、いつもと違うチェーン店に行ってみたり。実際にどこかへ行かなくても、視点を変えただけでどこへでも行ける。そんな風に肩の力を抜くヒントがたくさん散りばめられている本です。頑張ることも、肩の力を抜くことも、どっちも大事だなど思っています。この本にある「たくさん面白いことをしてたくさん忘れないながら、あんまり細かいことは覚えていないけど、なんかいろいろいい感じだった気がする!」くら

いの気分ですつと生きていけたらなと思う」という気持ちも未来を切り拓く力として、大事だと思えます。(M・I)

『終末のフール』伊坂幸太郎著 集英社文庫 2009

地球に小惑星が衝突するまであと8年!と、宣告されてから5年後。仙台のとある団地を舞台に、意外なほど静かに落ち着いた町で暮らす人々。目次には、「終末のフール」、「太陽のシール」、「天体のヨール」、「深海のポール」といった小編のタイトルが並びます。まるで面白いコンビ、ハライチの漫才ネタのようですが、関係ないようなタイトルが、やがてゆるやかに繋がって、優しい気持ちになれる短編集です。ZINEで公開中の韓国版の同名ドラマシリーズの原作でもありますが、ディストピアものですが、どんな状況にあっても希望を持って生きる人々に勇気をもたらせる1冊。(H・M)

『想い出あずかります』吉野万理子著 新潮文庫 2013

過去の想い出をあずかってお金を貸してくれる不思議な店「おもいで質屋」があったら皆さんはどうしますか。どんな「想い出」をあずけますか。この物語は、このお店を舞台に主人公が自分の未来について考え、成長していく姿を描いています。

「おもいで質屋」では、人々の大切な記憶を預かってくれます。ただし、子どもの時にしか利用できず、20歳になるまでに想い出を返してもらいに行かないと、その想い出は戻らない。そんなお店を訪れる人々は、忘れたい過去や大切にしたい記憶を預けたい。未来に進むための一歩を踏み出そうとします。主人公の里華もまた、中学生になりこの店と出会って季節を過ごしていく。やがて20歳を迎えた時何が起こるのか。里華たちは多くの出会いを通じて、自分自身の過去と向き合い、過去の経験をどう未来に生かしていくかを考えるようになります。物語の展開の中で、過去の出来事がどう未来に影響を与えるのか、人との繋がりが未来をどう形作るのかを深く考えさせられます。主人公の経験を通じて、過去を大切にしながらも前向きに未来を切り拓いていく力を感じ取ることができると感じよう。

未来への希望を失わず、自分の経験を糧にして進んでいく大切さを教えてくれる作品です。ぜひ、未来という視点でこの物語を読んでみてください。この年代で、とても読みやすいストーリーだと思えます。きっと、自分自身の未来を考えるヒントが見つかるはずですよ。(M・K)

『リカバリー・カバヒコ』 青山美智子著 光文社 2023

平積みされてある装丁を見た瞬間、カバ大好きな僕としては、買わずにはいられなくなってしまうました。完全にジャケ買い。それで後悔することも多いのですが、大丈夫でした。いろんな世代の登場人物(なので、中には共感しにくい話があるかも)が、こんがらがってしまった現実にとらわれて、これからの自分を考えることもできなくなってしまう。カバヒコ(どのような存在か読んで確かめてね)は、何かをしてくれるわけではありませんが、それぞれのリカバリー(回復)のきっかけになります。結局、僕たちは、こんがらがった現実を見たくもない、認めたくもない現実を直視することでは、未来へ一歩踏み出すことはできないようです。(H・W)

『いまさら翼といわれても』 米澤穂信 角川文庫 2019

六つの作品が収録された短編集です。ジャンルは、青春小説であるのと同時に、日常の謎と呼ばれる、人が死なないミステリー小説でもあります。この本はシリーズの六作目なのですが、安心してください。ほとんどの部分がアニメ化されています(京都ア

ニメーションの「氷菓」という作品です)。つまり、アニメを見てしまえば、この本から読んでも大丈夫ということですよ。でも、ぜひ小説でも読んでほしいです。面白いので。

この作品のヒロインにあたる高校生の少女は、自分の家の仕事を継ぐものだと思って進学先について考えています。主人公もそんな彼女の決意を知っています。表題作の舞台は高校二年生の夏休み、合唱祭に出演するはずだったヒロインが何故か会場に現れません。主人公はほんの少しの手がかりをもとに、「彼女がどこにいるのか」となぜ会場にこないのかを推理していきます。高校生活を送るなかで揺れ動く感情を描いた青春小説の面白さと、謎を解き明かしていく推理小説の面白さ、両方が楽しめる作品です。はたして主人公やヒロインはどんな未来に向かって成長していくのでしょうか。

『水上バス浅草行き』 岡本真帆著 ナナロク社 2022

流行に敏感な皆さんはご存じかもしれませんが、今、短歌が流行っています(念のため、短歌とは五・七・五・七・七のリズムで作られた短い詩のことです)。まさかこんな未来がやってくるとは……と、歌人たちはちょっと怯えながら、今、短歌ブームの波

の中にいます。ブームのきつかけのひとつになったのが、X(旧「Witter」)でバズった「まぼび」さんの短歌で、彼女の短歌を一冊にまとめたのが、この本です。特にバズった短歌を一首紹介します。「ほんとうにあたしでいいの？ずぼらだし、傘もこんなにたくさんあるし」傘を持たずに出かけ、雨が降るたびにコンビニでビニール傘を買う、すると家の傘立てにはたくさん傘が増えていきます。そんなずぼらなあたしで、本当に良いの？という恋の歌です。共感できる人も多いのではないのでしょうか。他にも、「犬だけがただうれしそう脱走の果てに疲れた家族を前に」とか、「だいたい30cm示すとき手と手にまぼろしの竹定規」とか。短歌ってこんなに身近で、こんなに明るくていいんだ、と思えるおもしろい一冊です。(Y・M)

『時をかける少女』筒井康隆著 角川文庫 2006

未来と聞いて真っ先に思い浮かべたのは、「時をかける少女」である。どこにでも居る女子中学生がある日タイムトラベルの能力を身に付ける。しかしその能力を得た彼女はそれに力に困惑する。そしてその原因を作った人物を探すべく、タイムトラベル

を行う。読んだ当時そんな事をするより、タイムトラベル能力を最大限利用し、時間旅行を楽しめばいいのになどと思ったものだった。でもそんな欲深さがない所が純粹で少年ドラマとなるゆえんであろう。

『夏への扉』ロバート A ハイソライン著 ハヤカワ文庫SF 2020

このSFは、時間がテーマの優秀作で、何度読んでも時間の流れを上手く利用した内容に感心させられる。書かれた時代が七十年近く前故に、今実用化されている物や考え方が本文中に登場する。SFは未来を先読みしているのな事を所々に感じる。同時に科学万能主義がまだまだ盛んだった時代を感じる部分も多く、原子力が未来を開く的な考えには少し首かしげたくなる。

『生き物の死にざま』稲垣 栄洋著 草思社文庫 2021

科学エッセイで、生き物が限られた命を精一杯生き、死んで次の代に色々な事を残している様を興味深く記している。実ほどの生物も、「死」へ向かうことで未来を開くことが出来る。と本能的に分かっている。小さな生き物(昆虫が多いが)の死に様を知ることで、「生きる」とは「死ぬ」とは何かを考えさせられた。また「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、

一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」という聖書の一節を思い出した。(S・T)

『頭のいい人だけが解ける論理的思考問題』野村裕之著 ダイアモンド社 2024

論理的思考、批判思考、水平思考、俯瞰思考、多面的思考、5つの思考力を鍛える67の知的トレーニングを紹介しています。「未来」を切り開く思考力や考え続けることのできる力に繋がるかと思えます。じっくり紙に書いて考えてみてください。難しい問題は解説を見て理解してください。(M・T)

『図書館戦争』有川浩著 角川文庫 2011

不当な検閲から本を守ろうとする図書館員の物語です。それぞれにドラマがありますが、主人公の未来を切り拓いていく力に勇気をもらえる本だと思えます。(H・H)

『ぼくは挑戦人』ちゃんへん.著 ホム社 2020

「ちゃんへん。」は、ジャグリングを用いた芸をする、プロのパフォーマーです。中2から高3までの人は、昨年度講演会でパフォーマーを観て、講演も聴きましたね。幼い頃に壮絶ないじめと差別を受けた「ちゃんへん

ん。」が、やがて世界的なプロのパフオーマーとなり、自分のルーツをたどる旅に出たこと、さらには、これからの自分の役割についても書いています。私はこの本を通して、自分の知らなかったことを知り、様々なことを考える機会を得ました。ぜひ一人でも多くの人に読んでもらいたいと思っています。

『人生はニヤンとかなる！』水野敬也＋長沼直樹著 文響社 2013

この本には「明日に幸福をまねく68の方法」という副題がついていますが、本を開くと、まず、猫の写真と「猫が教えてくれる大切なこと」が載っています。そして、その裏面には表面にある「大切なこと」に関わる「偉人エピソード」と「偉人たちの名言」が載っています。この本に登場する「68」の猫たちが、きつとあなたがたを楽しませ、人生で大切なことについて考える機会を与えてくれることでしょう。(N.O)

『覚悟の論理』安芸高田市長 石丸伸二著 デイスクヴァー・トウエンティワン 2024

「読書運動」に紹介する本か、と言われることかなり躊躇する本です。個人的なことを言うなら、私はこの手の本をあまり手に取りません。では、なぜ今年に紹介するのか。昨年度より、門前にいろいろつき合わされた方は「あー……」と著者を見て思われ

るでしょう。私がこの文章を書いている今は、「昨日、著者は安芸高田市長ではなくなった」というタイミングですが、皆さんに届くころには都知事になっているか、泡沫候補として消えているのか、その結果もとうとう出ている頃かと思えます。著者は、「人口戦略会議」がもうすぐ消える自治体」と言っているくらい、広島市の片田舎で、地方自治とは何かを根本から問う一年四年弱を過ごされた市長です。この本より、YouTubeの切り抜き動画を15個くらい見ていただく方が、いろいろ伝わるのではなにか、という気もしますが、「やるべきことをやる」「おかしなことをおかしきと言いつける」「対立を恐れず、対話に変える」という姿勢に日本中から多くの賛同の声を集めました(対話は、先方(議会)にお断りさせていただきましたが……)。この本は、そんな石丸(元)市長が何を考えて行動をしていたのか、ということをもとめた本です。内容はともかく、やわらかい文体で話をするように書かれていますので、とても読みやすいと思っています。皆さんの親御さん世代の人間が、社会の担い手として真剣に戦っているのです。彼個人に対してや彼の手法に対しての好き嫌いはあるにしても、真剣に未来を担保しようとしていて願っている大人の姿を見ていただければと願っています……政治家の本の紹介は、むづかしい……彼が出馬

するエリアではないので、許していただく……(S・M)
(編注)M先生お薦めのこの本と7ページN先生お薦めの『口の立つやつが勝つ』とこといいの『か』をセツトで読むとバランスがいいです。石丸氏の辞職後、安芸高田市は彼を批判し、刷新を訴えた市長を選びました。

『そして誰もいなくなった』アガサ・クリステイ著 ハヤカワ文庫 2010

中学生になってすぐに「好きな小説を1冊買ってあげる」と両親に言われて選んだ本です。一言一言が臨場感にあふれ、自分も孤島に招待されたかのような切迫感を覚えながら早く次を！次を！とページをめくりました。今となつては「古典」になったクリステイですが、発表当時は出す作品、出す作品が「そうきたか！」と驚き(と批判)を読者に与えました。私にとつて、中学1年生はクリステイを読み漁ったときでもありません。(高校1年生でブームが再来しています)この作品を読んだ後『オリエント急行殺人事件』『ABC殺人事件』『アクロイド殺人事件』など、一気にのめりこんでしまいました。推理小説界の常識を打ち破り、新しいセオリーやスタンダードを生み出したクリステイのように、未来の礎になれような人になりたい、と思いがなが

ら毎日図書館に通った日々を思い出します。まずはこの本をお勧めします。(S・M)

『時代を超える！スラムダンク論語』
遠越段著 総合法令出版 2023

言わずと知れたバスケットマンガの名作「スラムダンク」。近年映画化もされ、再びブームとなった。登場人物が発するセリフには読者の胸に強烈に突き刺さってくるものが多々存在する。中でも、湘北高校監督の安西先生の名言の数々には驚かされる。とりあえずコミック1巻から読破するべし。(H・W)

『True Blue 美しう海を、永遠に。』
玉村めぐみ著 A-works 2022

昨年の夏、姪が自由研究のテーマを「海」と決め、私も興味があったので、2人で海に行き、海岸を歩き、泳ぎました。そこで気づいたのが「ゴミ」です。そしてこの本に出てくるアーティストからヒントをもらい、海の問題をうたった作品を作ることになりました。この本では、日々の生活の中で海を守るために自分にできることを紹介しています。私たち一人ひとりの行動が、美しい海を未来に引き継ぐことにつながります。未来の環境について考えてもらえたらと思います。(A・B)

『ランチのアッコちゃん』 柚木麻子 著 双葉文庫 2015

彼氏に振られた三智子がアッコさんから「1週間、ランチを取り替えてこしましよ」と交換したのは手作り弁当。曜日ごとに違うアッコさんのランチを食べていくうちに元気になっていくというお話です。この小説を通してホンワカ元気になっていくこと間違いなしです。(M・S)

『斜陽の国のルスダン』 並木陽著 星海社 2022

物語の舞台は、東欧コーカサスに位置するグルジア（現在の国号はジョージア）。黒海とカスピ海の間、コーカサス山脈の南にあるヨーロッパの東の果ての国。この物語は、13世紀に生きたグルジア女王ルスダンをモデルに書かれた歴史小説である。東西文明が激しく交錯する中、命脈を繋いできた小国……その栄光が翳（かげ）りを見せはじめた13世紀、女王ルスダンは欧州で初めてモンゴル軍の脅威に直面し、西欧世界に警告を発したことで歴史に名を刻む。さらに、モンゴルに滅ぼされて西へ活路を求めたホルズム帝国の大軍に脅かされても、ルスダンは誇りを失うことなく王国を双肩（そうけん）に担う。

どれだけ苦境に立たされても、「未来」を信じて決断を下していくルスダン。その彼女の姿から、前に進むエ

ネルギーと勇気をもらう作品である。展開が早く、ワクワクしながら読める作品なので、ぜひ読んでみてほしい。(Y・K)

『100万分の1回のねこ』
江國香織ほか著 講談社文庫 2018

さまざまな作家による短編集です。もともと佐野洋子さんの「100万回生きたねこ」の絵本も好きですし、この本の中に好きな作家がいるし、この本の中で手に取った本です。愛情を与えること、逆に愛情を受け取ってしまうもどかしさ。中でも、「おおかさんのところ」にやってきた猫（角田光代）は猫の成長とおかさんの老いや社会環境の変化など、上手に絡み合っているラストシーンに涙が出ました。うまく生きようとするのではなく、この猫のように「ああ幸せだった」と噛みしめる最期をむかえるよう、生きられたらいいなと思う。(S・M)

『ガンジス河でバタフライ』 たかのてるこ 幻冬舎文庫 2002

作者さんの実体験をもとにしたお話で、わたし自身が今まですごく小さな世界で生きてきたんだということ、あらためて実感するような内容でした。地球上にはたくさん異なる文化が存在して……なんて知識としては

わかっているけど……実際にそこに足を踏み入れた人のことには説得力があります。わたしはこれからもひとりです。インドに行くことはないとおもうけど……勇気あるみなさんにはぜひ挑戦してもらいたい気もするし、本当に行かなくても、せめてこのなかの登場人物たちをとりまく環境や境遇・気持ちに共感できる幸せを味わってもらえたらうれしいです。

(M・T)

『源氏物語（紫の結び・宇治の結び）つる花の結び、全7巻』荻原規子著
理論社 2013-2018

未来は、過去や現在の続きです。過去の積み重ねのその先に、未来があります。また私は、高校生にSF「三体」シリーズをお薦めしましたが、司書のMさんに、「Netflix版ドラマの『三体』（上原、未見。原作は改変されているそう）に、地球文明を語るものの一つとして『源氏物語』が出てくる」のだと、教えていただきました。今年の大河ドラマ『光る君へ』もとてもおもしろいです。だから、『源氏物語』を紹介します。私が昔最初に読んだのは、与謝野晶子訳の源氏物語でした。そして漫画、大和和紀『あさきゆめみし』をワクワクしながら読みました。橋本治『窠変源氏物語』は光源氏目線でおもしろい。古来たくさん作家さんが源氏を現代語訳してくださっていますが、今回は、荻原

規子さんの『源氏物語』を紹介し、大胆に構成し直し、大胆に敬語が省かれた荻原源氏は、とても読みやすいです。さすが、勾玉三部作やレッドデータガールシリーズの荻原規子さん！源氏物語入門編として最適だと思います。

『源氏物語1〜4 アーサー・ウエイリー版』アーサー・ウエイリー著
毬矢まりえ・森山 恵訳 左右社 2017-2019

『源氏物語』をもうひとつ。これは、イギリスのアーサー・ウエイリーが100年前に英訳して世界中で読まれた『源氏物語』を、読みやすい日本語に訳し戻した本です。帯にこうあります、「100年前、シェイクスピアの国の人びとを涙させたベクトセラがドラマチックな演出をよみがえる！」。偉大な漫画家、竹宮恵子さんをして「このヴィクトリアン・GENI」を読むまで、私は源氏物語を理解していませんでした！このまま漫画にしてみたい！」と言わしめたウエイリー版源氏、美貌の皇子・シャイニングプリンスの物語。クリムトの絵が表紙の美しいこの本を、先日図書館に入れていただきました。皆さんも、ぜひ手に取ってみてください。

(M・U)



高校生向き

『君たちのための自由論』ゲリラ的な学びのすすめ 内田樹、ウズビ・サコ著 中公新書ブクレ 2023

神戸女学院名誉教授である内田樹先生と前京都精華大学学長でマリ共和国出身のウズビ・サコ先生が「君たち」に向けて書いています。一見難しそうですが、お二方の対談集なので、意外と読み易いのではないのでしょうか？個人的には、「多角的視野を持って」だったり、「自分の好奇心を大切にしろ」だったりというようなメッセージに共感しました。大学生になる前にちょっと読んでおくことをおすすめします。

(M・T)

『海と毒薬』遠藤周作著 新潮文庫 2003ほか

第二次世界大戦中の日本で行われた生体解剖事件を題材にした小説です。非常に重く、目をそむけたいような物語ですが、戦争といういわば極限状態の中、人間が倫理観や罪悪感を喪失し、アメリカ兵捕虜の生

『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』加藤圭木監修 一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編 大月書店 2021

韓国の姉妹校との交流をお手伝いする立場になって、日韓関係をより良いものにするために自分には何ができるのかを以前よりもよく考えるようになりました。この本は、社会学部の大学生たちが、日韓関係を日常生活の中からとらえ直し、どのように向き合っていくのかを考えて生まれた1冊です。「K-POPやモッパンが好き!」「韓国大好き!!」というだけでは解決できないこともたくさんあることを、ぜひ皆さんにも知ってもらいたいです。歴史問題や人権問題は難しそうですが敬遠しがちですが、大学生たちが自分たちの言葉で分かりやすく書いているのでとても読みやすいと思います。ぜひ手に取って、コラムを一つだけでもいいから読んでみてください。

近くて遠い国と言われることもある韓国。一番近い隣国として一緒に未来を作っていければいいですね。(K・Y)

『五輪書』宮本武蔵著 岩波文庫 1985
Reading Musashi Miyamoto's "五輪書" really changed my outlook on life.
To reach the level of mastery,

one cannot rely on the mystical, but only on a series of rational methods.

Musashi is also my middle name so I wanted to learn about this inspirational figure that left an indelible mark on society. (S.M.U)



『SDGsから考える世界の食料問題』小沼廣幸著 岩波ジュニア新書 2024

SDGsの目標達成のために具体的にどのようなことができるのか、35年間の国連勤務やその後の経験の中で学んだこと考えたことを通して、とてもわかりやすく書かれています。そして「未来」がどうなっていくのか

不安だが、いったいどうすればよいのかわからないという若い人たちに、「まず自分でできることをしてみよう。」と呼びかけています。筆者の豊かな経験に基づく力強いアドバイスから、「一歩踏み出すこと」の大切さと勇気を与えてもらえる一冊だと思います。(Y・K)

『アメリカの大学生が学んでいる本の教養』齊藤淳著 SB新書 2023
高校生で教育に関心がある生徒にはぜひ読んでほしい一冊です。グローバル化が進む中で、世界の教育は大きく変わりつつあります。日本の学校教育とアメリカの学校教育にはどのような違いがあるのでしょうか。また、「ChatGPT」をはじめとする生成AIが手軽に利用できる現代社会では、どのような学びが重要なのでしょう。か。日本が重視する教育観も一つの視点ですが、他の国々がどのような考えを持っているのかにも目を向けて、教育について考えてみませんか。教育は、未来に大きく関わります。未来を担う子どもへの教育について考えをぜひ深めてください。(H・S)

『The Boy Who Harnessed the Wind』(風をつかまえた少年) William Kamkwamba and Bryan Mealer 著
HarperCollins Publishers Ltd 2009

This is a true story about a young boy named William who lives in Malawi, Africa. Despite facing poverty and drought, William uses his creativity and determination to build a windmill to generate electricity and save his village.

This book teaches us that no matter how difficult the situation, we can change the future with innovation and perseverance. William's story will inspire you with hope and courage, helping you develop the power to create a better future.

Just like William, you too can shape the future and contribute to "Designing a Future where Life Shines." I encourage you to read this book and be inspired. (D・H)

『クララとお日様 (Klara and the Sun)』カズオ・イシグロ著 土屋政雄訳 ハヤカワepi文庫 2023

この2021年の小説の主人公クララは、遠い未来に生きる「AF」(Artificial Friend)である。この未来では、子どもたちはもはや通学していない。代わりに、テレビ会議ソフトを使って自宅で教育を受けている。クララは、このような子どもたちが社会性を身につけられるようにデザインされたAIロボットの。裕福

な人たちだけが子供たちにAFを与えられることができる。つまり、お金のあふれる人たちが社交性を学ぶことができるのだ。カズオ・イシグロは、この小説の出版からわずか2年後に、AI技術がこれほどまでに一般化し、身近なものになるとは予測できなかっただろう。

私たちの世界は急速に変化している。この数カ月だけでも、英国王室がAIを使って写真を加工しているという非難され、イギリスの雑誌『Colouring Heaven』は表紙に“Only Human Art” (人間だけの芸術) というラベルを貼った。1818年にメアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』(世界初のSF小説) が出版されて以来、SF作家たちはロボットやAI技術を繰り返して脅威として描いてきた。それが現実のものとなった今、人々は当然ながら、このテクノロジがいかに早く、予期せぬ形で私たちの世界や産業を再構築し始めたかに疑念と不安を抱いている。

この小説を選んだ理由は、第一に、AIが未来に大きな役割を果たすと信じているからであり、私たちがAIに抵抗し続ける必要はないと、私たちがAIに誤った情報を広められるように、人類がその恩恵を享受できるように、私たちがAI技術を倫理的に活用する方法について適応し、教育しなければならぬ。この小説を選んだ2つ

目の理由は、主人公のクララが無邪気で、好奇心旺盛で、慈悲深いからだ。彼女は世界をより良い場所にしたい。仲間をより楽しいものにするためにデザインされている。希望に満ちたクララと彼女の太陽は、「生命が輝く未来の世界」のマスケットにぴったりだと思う。(B・H)

『バッタを倒しにアフリカへ』前野ウルド浩太郎著 光文社新書 2017

表紙を見ると、松蔭の関係者は思うかも知れない。「宮崎先生かな。」その表紙には緑のバッタのイラストが描かれている。著者は美術教師、ではなく、国立研究開発法人国際農林水産業研究センターの研究員である。アフリカで大発生するバッタから農作物を守るべく、バッタの研究をしている。研究を始めた当初、彼は大学院に籍を置く学生だったが、フリーターと変わらない生活をしていくという。しかし、自分の研究を全うすることによって現在の地位を得た。その研究手法も面白い。現地へ赴き、土地の人たちの力を借りながら、バッタの群れを追いかけ、いつの間にか現地の人も関係が築き、ミドルネームをもらうまでになる。念ずれば通ずというか、継続は力なりというか。

いずれにしても、将来に不安を抱く高校生にぜひ読んでもらいたい。

(T・M)

『平行植物』レオ・レオーニ著 工作舎 2011

代表作「スイミー」でお馴染みの、絵本作家レオ・レオーニ。1学期の特別礼拝でも、部分品のお話「ペツエツティーン」が紹介されました。他にも素晴らしい作品が多数。そんな彼の頭の中にある「並行世界」に棲息する植物たちのはなし。

「並行世界」すなわち「マルチバース」の概念は、アベンジャーズシリーズでも知名度が上がりましたね（辻褄が合わない設定などもすべてマルチバースで回収してしまうパワー概念です）。フエツキノヒカリバナ、フエフキトツキ、マネモネ、など、レオの頭の中の「平行世界」に出かけてみませんか。(H・M)

『いま、会いにゆきます』市川拓司著 小学館文庫 2007

7年後の未来の自分に起こることを、かわっていても、あいたい人に会いに行く女性とその家族の物語。日本、韓国で映画化されました。

(M・S)

『舟を編む』三浦しをん著 光文社文庫 2015

NHKでドラマ化された作品です。辞書が出版されるまでの過程が描かれています。

ある言葉が数年後の未来において人々が使用しているかも想像してみることなど、「言葉」というものの存在を考えさせられる興味深いストーリーです。主人公の女性が少しずつ辞書に愛着をもつようになるところも素敵です。(K・S)

『FACTFULNESS(ファクトフルネス)』ハンス・ロスリング著 日経BP 2019

「世の中は悪くなっている」となんとなく感じていたあなたにお勧めの一冊。人間には物事を悲観的に見るという本能があり、そのせいで世界のありようが正しく認識できなくなってしまうことがある。しかし、この本はきちんとデータを用いて（しかし難しい用語は一切使わずに）、世界は悪くなっているどころか、良くなっているというところを見せてくれます。明るい「未来」を作っていく皆さんにはぜひ読んでほしい。(T・K)

『未来をつくる言葉 わかりあえなさをつなぐために』ドミニク・チエン著 新潮社 2020

何か国語も操れる人の頭の中は、一体どんなことになっているのだろう。「コミュニケーションとはわかりあうためのものでは無く、わかりあえなさを互いに受け止め、それでもなお共に在ることを受け入れるための技法」これから様々な出会いが待つ君たちには是非読んで欲しい1冊です。(H・S)

ニートン別冊 『よくわかる人工知能のすべて』ニートンプレス 2024

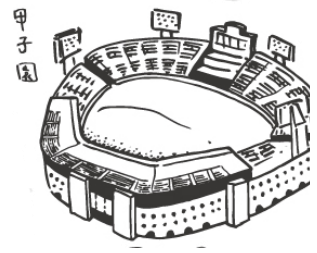
「ニューラルネットワーク」や「ディープラーニング」などのAIの基本的なしくみだけでなく、その活用例やAIがはらむ問題点をわかりやすく紹介しています。話題のChatGPTや画像生成AIなど、最新の話題も取り上げて、日々進化を続けるAIの現在地を明らかにしていきます。便利さやその活用方法に目を向けるだけでなく、人工知能が潜在的に持っている課題に向き合い、近い未来に起こると言われている「シンギュラリティ」について、その是非も含めて考えてほしいと思います。(T・H)

『感動だけが人を動かす』 永松茂久
著 きずな出版 2023

作者が接客業を通じて、人との接し方、向き合い方、話の聞き方などわかりやすく書かれています。こういったことを意識して行動すれば自分も相手も気持ちよく過ごせることができるようになるのでは？そんな生き方ができればあなたたちの未来も開けていくと考えさせられる1冊です。

『夢、続投！マスタースタジアム』 重松清著 朝日文庫 2014

だいぶん昔に紹介したこともあるのですが、元高校球児が甲子園を目指す、さまざまなたくまなストーリーが書かれています。Nもマスタースタジアムという大会に実行委員として開催当初からかかわっているのですが、今、だめでも頑張っている、またチャンスは来る。そんな夢が叶う、実話をまじえたお話です。君たちも今はアカンと思っていることでも頑張っていれば遠い未来であったとしてもチャンスがくるかもしれません。私もこの大会を通じてボランティアではあり



ますが入場行進の先導をさせていた
だいたり自分では想像できなかった
た未来が待っていました。なので、み
なさんの持っている夢が未来に繋がる
ことがあるのでは？と思ったりし
ます。(K・N)

『父が娘に語る美しく、深く、壮大で、
とんでもなくわかりやすい経済の
話。』ヤニス・バルファキス著 ダイア
モンド社 2019

十代の娘の「なぜ、世の中にはこ
んなに格差があるの？」という素朴
な質問に、元ギリシャ財務大臣の父
が経済のしくみを優しく、美しく、深
く、壮大に、とんでもなくわかりやす
く解説した経済のお話本です。経済
なんてよくわからないし、興味がな
いという人、ぜひ気楽に読んでみて
ください。(T・A)

『人生に、寅さんを。(『男はつらいよ』
名言集)』松竹国内ライセンス室/
キネマ旬報社 2008

山田洋次監督の映画に『男はつら
いよ』という作品があります。主人公
の「寅さん」は旅先からふらっと帰っ
てきては、家族や周りの人に迷惑を
かけたがり、心配をかけたりします。そ
れでも、たくさんの温かい言葉をか
けて誰かを助けたり、勇気づけたり
があります。全部で4作(＋特別編)

『シャーデンフロイデ 他人を引きず
り下ろす快感』 中野信子著 幻冬舎
新書 2018

でも2作でもDVDやテレビなどで
観てみてください。この本にある言
葉の中に、あなたの心に響くものが
あれば幸いです。(N・O)

ざっくりいうと、「まあ」な気持
ちを科学的に解き明かす……という
内容です。硬い話の部分もありますが、
著者がテレビに出てくるあの語
り口が頭に浮かぶような調子で書か
れているので、内容の割に読みやす
いです。この著者は「ホンマでつか
ま」に科学者席でお茶の間に顔を売
り、その後NHKの教養番組に出るよう
になり、現代の心理学者・脳科学者とし
ての知名度を上げていく人物です。

人の黒い感情を解き明かすというの
は皆さんにとって受け入れにくい内
容かもしれませんが、残念ながら、私
もあなたも黒い感情がたくさんあ
るわけです。だって、人間だもの！そ
の黒い感情を客観視することで、黒
い感情をエスカレートさせず、上手
に付き合っていけるようになるので
はないかと思ひ、この本を紹介しま
す。私もあなたも、美しいままでい
られないのです。だから、面白くて人
間をやめられない！そんな気持ちに
なってもらいたい。黒い自分もしっか
り受け入れて、まっすぐ前を向いて歩
んでほしい。そんな気持ちを込めて

『人生に、寅さんを。(『男はつらいよ』
名言集)』松竹国内ライセンス室/
キネマ旬報社 2008

紹介します。
『英文詳説日本史』佐藤信、五味文彦、高埜利彦編 近藤成一翻訳監修 山川出版社 2024

日本史の教科書が、英文化しました！構想約10年、世界史より5年長くかかりました！山川の社長さん曰く、「変とか役とか乱とかをしっぴり分類して、定義づけて、訳すのが大変でした！」とのこと。授業で扱う用語には、慣習で使用する言葉もたくさんあります。「先生の言っていることと違う用語が書かれています……！」という質問に、「あー？あー、どっちでもいい！好み好み！」と返すこともありま。そういう部分を見直す作業は、とても大変だと思います。残念ながら、私は英語が得意だ……日本語より英語の方が得意だぜ、という皆さん一度、こちらでどうぞ(笑) 世界史版もあるよ！

『トランスジェンダーになりたい少女たち』アビゲイル・シユライアー著 産経新聞出版 2024

『いわゆる、「問題作」です。まず、アメリカで発表されたこの作品の原著はトランスフォビアのレッテルを張られ、図書館や学校、本屋から締め出されました。この時点ですでに「問題作」だったのですが、日本ではKADOKAWAが翻訳・出版しようとした。その情報が外に漏れたとたん、KADOKAWAは強烈的な批判にさらされ、出版を断念します。宙ぶらりんに

なったこの企画を産経新聞出版が救い上げたという形になりました。しかし、日本でも激しい抗議の声がこります。「トランスジェンダーを否定している」「こんな本を書店では置かないでほしい」。ネットニュースになるほどの騒動になります。「焚書」とまで言われているこの本をどれだけの人が読んで否定・拒絶をしていくのかとふと疑問を持ちました。本屋に置いていなくても、ネットがあるじゃない！とポチっと購入して読んでみました。この本の感想は、呼んだ方と語りたいたいと思います（希望者のみ）。が、どのような感想を持つと、全てを読まずに批判・拒絶をするのは明らかにいびつで、傲慢です。世界にはいろいろな人がいて、いろいろな主張がありますが、フィリピンで徹底的に他者を排除できる感覚は、ヒステリックで危うさをはらんでい。一方的に片方の言論を封じる風潮は、ファシズムとなら変わらないのです。原典は無理でも翻訳でもいいので、何がどう批判されているのかを確認してほしい。どうか、公平な目と、公平性を保ちたいと願う心を忘れぬ大人になってください。(S・M)

(編注) この本は思春期の少女にとってかなりナイーブな内容です。アメリカの少女たちがSNSの影響で自分がトランスジェンダーだと思ひ込み、つい手術やホルモン注射を受

けて問題になっていきます。実際に真剣にそういった選択肢(情報や施術)が必要なのはいるでしょう。しかし、そうではない人が周囲に流された結果、大人になってから取り返しのつかないことに悔やんでいる事例の多さ。生徒さんというよりは保護者の方に読んでほしい本かもしれません。

『人を10分ひきつける話す力』齋藤孝著 だいわ文庫 2008

皆さんは「話すこと」が得意ですか？ おしやべりじゃありませんよ。ここで言う「話す」とは、メッセージを多人数に向けて発信することです。面接やプレゼン、スピーチなど、現代を生きる皆さんには「話す」機会がいっぱいありますよね。誰かに向けて「話す」とは、聞き手と時間を共有することです。「話す」内容によっては、聞き手の時間を奪うことにもなりかねません。聞き手を「ひきつける」話が出てくる人は、人間的にも魅力のある人です。この本を読んで、皆さんも「魅力ある」話し手になってください。(C・S)

『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』フィリップ・K・ディック著 ハヤカワ文庫SF 2011

第三次世界大戦後の未来、人造人間を狩る賞金稼ぎが主人公。彼は他人に共感できるかどうかについての

テストをすることで機械と人間の区別をしてきたが、火星を脱走したアンドロイドを追ううちに生物と機械の境界がどんどん曖昧になり、区別がつけられなくなっていく。SFの古典ですが、AIが人のように会話できるようになりつつある今だからこそ、より興味深く読めると思います。ハリソンフォード主演の映画「ブレイドランナー」の原作としても有名です。(R.N)

『ハーモニー』 伊藤計劃著 ハヤカワ文庫 2014

医療の発展で病気がないよう「未来」が訪れたら、あなたはどのようなと思いますか？

今回紹介する本は、伊藤計劃さんの「ハーモニー」という本です。アメリカで発生した暴動をきっかけに世界中に戦争と未知のウイルスが蔓延した。政府は弱体化し、やがて、高度発達医療社会「生府」が立ち上がった。「生府」の管理下では医療の発達でほぼすべての病気が駆逐されていたしかし、人間こそ重要な公共リソースであるとして位置づける「生府」の管理を憎悪する少女ミアハに、主人公であるトアンは共感し、友人のキアハと共に自殺を試みる。しかし、ミアハだけが死んでしまう。それから13年が経ち、ある犯行グループによって同時に数千人規模の命を奪う事件が発生し、人々を再び恐怖に陥れる。

犯行声明として発せられた彼らの「宣言」は、死んだはずのミアハの思想そのもので……。生き残った少女トアンが事件の真相を求めていく、というようなあらすじです。

この本の面白いところは執拗なまでに健康をおしつけてくる社会の圧力にあらがっていく少女たちです。この世界では病気や不摂生を未然に防ぐ警告が体に埋め込まれたナノマシンから発せられます。そのような徹底した管理に抵抗していく少女たちがたくましく、見ていて面白い。また、少し先の未来で起きそうな世界を疑似体験できるところも素晴らしいと思います。

この本の作者は 2007 年に本格デビューしてからわずか二年ほどで早逝されましたが、この作品は 2015 年にアニメ映画化されています。他作品ではありますが「虐殺器官」はゼロ年代日本SFのベストに挙げられているなど、素晴らしい作品を『ハーモニー』以外にも書かれています。この本を読んで興味が出た方は、ぜひ伊藤計劃さんの他の作品も読んでみてください。(M.N)

『明日のあなたへ 愛することは許すこと』 三浦綾子著 集英社文庫 1996

初めて読んだのはもう何年前かなと思うほど昔に読んだ本ですが、実家に帰るたびに読み返しています。

エッセイなのでどこからでも読めます。まだまだだなと実感させられるけれども学びの多い本です。(M.S)

『夜と霧』ヴィクトール・E・フランクル(訳) 霜山徳爾、新訳 池田香代子 みすず書房 2002

『源氏物語』推薦文に自分で、「未来は、過去や現在の続きです。過去の積み重ねのその先に、未来があります。」と書きながら、「じゃあ、『夜と霧』はやっぱり外せないなあ」と思いました。「昨年にも挙げましたが、また挙げます。名著です。」

心理学者フランクルの強制収容所体験の記録です。人間とは何かと考えるとなくなる時、まず読みたくなる本です。私が最初に読んだのは、霜山徳爾さんの格調高い訳でしたが、恐ろしい写真等もたくさん入っていました。2002年の新訳の本は、フランクルの本文だけがわかりやすく訳されています。今年「関心領域」という静かな、しかし衝撃的な映画も公開されています。他人事ではない私たちが人類の過去を、知らなくては、そして、どう生きるか、考えなくては、ね。

『三体I』『三体II 黑暗森林』『三体III 死神永生』劉慈欣著 ハヤカワ文庫 2024

中国発のSFです。私は文庫になるのを待っていたのですが、この2

月に一の文庫が出てすぐ読んで、ものすくおもしろくて続きが読みたくてたまらなくなり、口、曰は文庫化を待たずに本屋さんに走り、単行本で読みました。6月末現在、口も曰もすべて文庫になっています。

時も空間も越えて、ものすくおしい勢いで展開する物語です。発端は文化大革命。この過去が、遙かな未来に繋がっていく。帯の一言「人類は滅びなければならぬ！」「シリーズ世界累計 2900 万部！エンタメ小説の最高峰、ついに文庫化！」。前日譚ともいえる『三体〇（ゼロ）球状閃電』と、『三体』本編の熱狂的ファン宝樹による番外編（劉慈欣公認）『三体X 観想之宙（かんそうのそら）』もおもしろかった！

『深海の Yuki（イール）1〜4』フラ
ンク・シエツツイング著 ハヤカワ文庫
NV 2023

海を舞台にした SF です。昔、これも一気読みでした。世界中の海で生じる異変。人類は、世界中のあらゆる場所、海の生物に攻撃されます。攻撃のしかたがすごい、おぞましい、恐ろしい！司令塔は深海の知的存在。全世界の研究者たちは全身全霊をかけて、全容の解明に挑みます。

2008 年に出版されたが、映画化の噂が聞こえてきましたが、どうも実現したふうではなく。ところが、ついに 2023 年、『THE SWARM（ザ・スウォーム）』としてドラマ化されたよう

です！……人類、調子に乗るなよ！
『わたしを離さないで』カズオ・イシ
グロ著 ハヤカワ e-book 文庫 2008

ノーベル文学賞受賞作家、カズオ・イシグロ氏の作品です。いつものように、抑制のきいた端正な語り口、とても好きです。でも、語られる世界がなんだかおかしい。ミステリーか？ SF か？ 静かに静かに切迫感が募っていく。ネタバレは控えませんが、ほんとうにこんな世界、施設に自分がいたら、なんていうことも考えてとても切なくなりました。鮮明に覚えていきます。『わたしを離さないで』に限らず、カズオ・イシグロ氏の本は、皆さんにもぜひ読んでほしい！（M・U）

『生成 AI で世界はこう変わる』
今井翔太著 SB 新書 2024

今、「未来」を語る上で、AI の登場・進化を外すことはできない。近年の AI の進化は、人類が言語を獲得したことにより急速に発展し始めた時期と同じ、時代の分岐点にある、と筆者は指摘している。AI は今後とも間違いなく進化する。今の生成 AI には何ができて何ができないのか、この本を読むとともに、今すぐに自分で生成 AI を触ってみて実感することをお勧めする。

『世界は経営でできている』岩尾俊

兵著 講談社現代新書 2024

経営は、企業経営だけの話ではない。人生や世界のあらゆる場面において、経営的視点で「目的」を「手段」を明確に意識しなければならぬ。その意識をしっかりと持つことで、世の中は違って見える。そして自分が望む「未来」をつかむ道筋をみつめることができるかもしれない。筆者の文体には、始めは違和感があるかもしれないが、慣れてしまえば、ちよつと癖になる人もいるかもしれない。（T・S）

『人口減少社会の未来学』 内田樹
編 文春文庫 2021

僕が高校生だったころ、地学の先生から「地球の人口は 43.7 億人」と聞いた覚えがある。「2024 年の地球の人口は 81.1 億人」、40 年間で約二倍になった。その中で日本の人口は減り続けている。「未来」を生きるあなたはどうか考える？ 各界の著名人が専門分野の観点から人口減少を捉えている。編者の内田氏の序論だけでも十分に読みごたえがある。日本人の陥りがちな思考が喝破され、僕は慄然とした。その中でもがきながら「未来」を見つめるための良書。目次を見て誰を読むか、「読書運動」の勝負をかけてみよう。

『先生は教えてくれない大学のトリセツ』田中研之輔著 ちくまプリマ―新書 2017

近くの「未来」に大学進学を選ぶ人が多いだろう。その中でどんな「未来」を描くか、そのヒントになる書物。自分の「未来」を先読みする書籍。

(K・Y)

『学校に染まるな！』おおたとしまさ著 ちくまプリマ―新書 2024

「学校は【学び】をつまらなくする装置」「偏差値はラーメン屋さんの行列と同じ」「いい学校」より「面白い学校」を探せ」「中高生のうちから備えておかなければならないスキルなんてなんにもありません」「流行のスキルなんてすぐに陳腐化します」「どのみち常に自分をアツプデートしなければいけないんです。」

だいたいタイトルからして推薦することだけをどれだけ迷ったか。刺激的(過ぎる)表現の連続に目も頭もクラクラする！ 読後、理論武装した生徒に囲まれて、「勉強ってする意味あるんですか？」と校長室で追い詰められている自分を想像してふと我に返る。でもおもしろいブツは皆で分かち合うべし。高校生の皆さんに紹介することにした。読めば納得、語れば本気、明日への一步を踏み出すのだ。学校が大好きな人も、大きらい

な人も、ミライ志向で勇気を持つとう。最後に伝えたいことをひとつ。松蔭が貴女を教育しているのではない。貴女が松蔭の歴史の1ページをつくっているのだ。

(N・A)

『この星で生きる理由 過去は新しく、未来はなつかしく』 佐治晴夫著 KTC中央出版 2022

理学博士であり、北海道にある「宇宙」の天文台台長などを務める著者のエッセイ集です。人であること、人生、一日、善悪、人間関係、戦争……様々なことについて意外な視点で語られているので、面白い発見があり、自分も広い宇宙のなかに生物の一つだったなと思ひ出したりしました。著者によれば、「これまででこれが決める」のではなく、「これからがこれまでを決める」のだそうです。未来がなぜ「なつかしく」なるのか、読んでみてください。(K・K)

『アルケミスト 夢を旅した少年』パウロ・コエリヨ著 角川文庫 1997

羊飼いの少年サンチャゴは、エジプトのピラミッドで宝物を発見できるという夢を見て旅に出ます。旅で出会った人たちに支えられ、ピラミッドにたどり着くのですがそこには宝物はなく、思いがけない場所にあることがわかります。自分の弱い部分に負けてしまいうるようになるサンチ

ヤゴに対し、背中を押してくれる錬金術師の言葉は心に残るものがあります。

夢を実現しようとするのか、ただ夢を見ることだけで満足するのかによって、その人の未来は大きく変わります。これからの目標がある人・ない人それぞれに「自分が何をどうすればいいのか」目指すものまでの過程が大切なのだと気付かせてくれます。(K・M)

『この夏の星を見る』 辻村深月著 KADOKAWA 2023

「未来」という言葉から連想するのは、明るいイメージでしょうか。それとも未知なものへの不安？2020年に始まったコロナ禍では、これまでにない状況に、この先がどうなるのか不安を覚えたかもしれません。

このお話は、みなさんと同じ中高生が主人公。新型コロナウイルスの感染対策として登校や部活動が制限されるなか、それぞれの立場で思い悩む姿はとてもリアルで、あの頃の息苦しさ、閉塞感が少しよみがえってしまっています。けれども、離れた場所にも同じ空を見上げる天体観測を通して、前を向き進んでいく登場人物たちその姿からは、とんでもないと思える状況でも、人は未来を切り開いていくことができる、そう思える読後感です。(N・F)

『水車小屋のネネ』 津村記久子著
2023 日新聞出版



入学金を母が
自分の婚約者
のために使っ
だ。小学生の
妹・律も彼の
虐待されてい
る。思い切っ
て妹と一緒に
家を出て、独
立しよう。と
見つけたのが
おそば屋さん
を手伝いなが
らヨウムの相
手をすること
。ネネは賢い
鳥で、水車の
そば粉が切れ
たら石臼が空
打ちしないよ
う教えてくれ
るのだ。高校
を卒業した妹
ばかりで誰も
知らない町で
懸命に妹と
婦、老画家、
妹の担任教師
、婦人会の人
たちと最初、
ぎこちなく、
でも互いを思
いやって、つ
つましくも幸
せな生活が続
くのだが……。
登場人物がみ
んなどこかに
不幸を抱え、
お互いを少し
ずつ支えあっ
ているところ
に癒されます
。中村哲さん
ほどの偉人で
なくても、他
人のた

めに何かをする、ささやかな生き方に尊さを感じます。みなさんの人生がこれからうまくいかないことがあってもなんとかこの姉妹のように誠実に生きていけたら、幸せじゃないかなと思いました。そして50年も生きるというヨウムのネネのユーモラスで頼りになる存在感！気軽に読んでみてください。(Y・M)

推薦図書は一冊ずつ揃えてあります。本によっては書店に置いていないものもあるので、早めに借りに来てください。夏休み貸出は10冊まで9月2日(月)が返却日です。

※図書館の夏休みの開館時間は
8:45～16:15です。

8月5日(月)～18日(日)と土・日曜日は閉館です。

夏休み期間中は小学生向けの疑問解決お助け講座を実施しています。調べモノなら何でもOK。事前調べたいことと来館日をlibrary@shoin-jhs.ac.jpに申し込めば、資料を準備します。参加者にはオリジナルYOMUノート

と、小・中学生におすすめの本(冊子)、画用紙をプレゼントします。小学生の友達や親戚がいる人はぜひ教えてあげてください。



「海ほたるってなに？」
「ぐりとぐらのカステラの作り方が知りたい」
「年をとった犬のお世話の仕方は？」
「兵庫県にきた台風の年平均の数は？」
「ねこの飼育方を知りたい」
「セミの一生は？」
「風車と風力発電について」
「戦争について」
「図書館の玄関でポーンと音がするのはなぜ」

どんな疑問でも結構です。知りたいことを申し込んでください。これは兵庫学校図書館スタンプリのイベントです。7校全てのスタンプリを集めて提出すると、素敵なオリジナル文庫カバースセットがもらえます。くわしくは図書館カウンターまで。